

えんだより



本日は、引き取り訓練にご参加いただきありがとうございました。

地震・水害などの天災は予測できない事態が発生することを常に職員間で考えて、子ども達の安全を確認しあっていますが、保護者の立場から、災害防止や対策についてお気付きの点やアドバイスがありましたら参考にさせていただきますのでお知らせ下さい。




コロナウイルスは最初発見された時から型が次々と変わり、治療薬や予防薬の開発も遅れています。「次には自分が感染するかも知れない」という危機感を常に持ち、手洗い・消毒・マスク等で感染を防ぎましょう。

感染した場合幼い子どもは重症化する傾向があり大人の環境設定が重要です。ご家庭と保育園が協力し合い、コロナウイルスから子どもを守りましょう。

★保健室より

鼻は呼吸・匂いを嗅ぐ・異物を取り除くフィルターのような役割があります。細菌やウイルス・埃や花粉などの異物が鼻の中に侵入し粘膜が炎症を起こした時に鼻水が出ます。黄色～緑色の鼻水が見られる場合には、細菌・ウイルス感染によるものがあります。子どもの鼻は、狭く鼻と耳をつなぐ耳管が太く水平なためウイルスが入りやすい構造となっています。

鼻水が続くと口呼吸になり喉が乾燥し、喉を痛めることもあります。

鼻の症状	アレルギー性鼻炎 透明のさらっとした鼻水 進行すると黄色に変わる 鼻つまり・連発するくしゃみ	風邪 透明～色が付いた 粘りけのある鼻水 鼻つまり・くしゃみ	
鼻以外の症状	目のかゆみ 	熱 咳・たん 喉の痛み・違和感	

東京都はコロナウイルスの警戒レベルが引き上げました。葛飾区内でもコロナウイルス感染の報告があります。

保育園では、引き続き感染リスクを減らすべく、一層の対策の強化に努めていきます。

登園後、お子さんに発熱等の症状（悪寒・頭痛・咳・喉の痛み・鼻水・息苦しさ・嘔吐・下痢・機嫌が悪い・いつもと様子が違う等）の症状が見られた時には、ご連絡致しますので速やかに受診して頂くようお願い致します。受診した際には、感染症の把握の為に受診結果をお知らせ下さい。



★給食室より

暑さに負けないような体づくりをしましょう。

9月になってもまだまだ暑く、今年は夏がずれ込んで夏日が続くと言われてます。新型コロナウイルスで心身ともに負荷が多かった今年の夏ですが、食事ですれでも楽しく、心も体も元気になるよう、バランスの良い食事を心がけ、暑さを乗り切りましょう。

旬の食材は一年を通して一番栄養価が高いとされています。そんな秋の味覚に欠かせないきのこは食物繊維・ビタミンD・ミネラルなどを豊富に含んでおり、香りが良く、どんな料理にも合う優れたものです。きのこを食べることで、便通も良くなります。また、きのこにはカリウムが多いため、塩分の過剰摂取を抑制するともいわれます。きのこに限らず秋の味覚を味わい、元気に残暑を過ごしましょう。



熱中症にはスポーツドリンクより経口補水液



熱中症対策には経口補水液と呼ばれるものを摂取しましょう。コンビニでは手に入りやすく、手元がない時には手作りもお勧めです。

水：500ml	グラニュー糖：15g
塩：ふたつまみ（約1.5g）	レモン汁：15g

まだまだ暑い季節、マスクをして過ごすのはとても大変かと思えます。熱中症にならないよう注意して過ごしてください。

☆クラス紹介（つき組）☆

「主体性を大切にしながら、集団での協調性を育てていきます」

今年度のつき組は男児7名、女児10名の個性豊かなクラスです。

最近は製作が人気で、身近な素材を使い双眼鏡や生き物を作って遊んでいます。魚作りから水遊びでの魚釣りゲームに発展したり、共同製作で動物園作りをし、動物園ごっこへと発展させ他クラスを招く時は、役割分担を行って協力し合うこともできます。継続して行った過程や努力を認めることで自励心を育てていくと共に、自分が作ったものに愛着を持ち、物を大切にできるような心の発達を促しています。またカードゲームが盛り上がり、トランプでは様々な遊びのルールを子ども同士で教え合い、「七五三」や「スピード」など新たなゲームも増えました。

ひらがなも少しずつ理解できるようになったことから、カルタ遊びでは頭文字を頼りに、札を懸命に探しています。約束事を守ることの大切さを知り、ルールのある遊びを楽しめるような働きかけをしています。

気づきや主体性を大切に保育を行いながら、子ども自身が集団の一員であるという意識を持ち、協力・協調性が育まれていくような配慮を行ってまいります。

